

祝辞

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。ようこそ上智大学へ。またご家族の皆様にもお慶びを申し上げます。皆様が、今日、ソフィア・ファミリーに加わってくださいましたこと、心より歓迎いたします。

今日、私が高校時代に聞いた話を分かち合いたいと思います。「塩でできた人形」が自分を探して旅をした話です。旅の途中で様々な出会いがあり、そのたびに「あなたは誰ですか」と聞いていきます。自分探しを続け、ついに海にたどりつきました。今までとは違って微妙に動く広がりに向かって「あなたは誰ですか」と塩の人形は海に尋ねました。海は微笑みながら答えました。

「中に入って確かめてごらんなさい」。そこで人形は海に飛び込みました。海の中に入って行けばいくほど、人形は溶け、ついにほんのわずかしが形がなくなりました。最後の形が溶けるまえに、人形は感嘆の叫び声をあげました。「今こそ私は、私がだれなのかわかった！」と。さて、これまでの皆さんも多くの出会い、様々な門をたたいてきたと思います。人生の新たなスタートを切る今、皆さんの心には大きなのぞみや夢があることでしょう。今みなさんは上智大学という海に飛びこんだところですよ。それに溶けこんで行ってください。そして本当の自分を見つけてください。

みなさんは大学生活の中でじつに多くのことを学びます。上智大学はそれを全力でサポートします。上智大学は今日、新しい学長を迎え、新しいスタートを切ります。私たち教職員と共に全力を尽くして皆さんをサポートする覚悟でいます。

上智大学は、「キリスト教精神に基づき、真理を探究し、他者のために他者と共に奉仕する人を育成する」という建学の理念のもとに設立されました。学問を追求するだけでなく、自らを深く見つめ、人々と社会、そして自然とのつながりを理解し、より高い価値を求めて生きることを目指しています。是非イエズス会教育のこの精神を理解する努力をしていただきたいと思いません。

皆さんはカルカッタのマザー・テレサをご存知ですか？ 生前、上智のキャンパスにも足を運ばれました。マザーは1980年代にある国際会議で、こんなエピソードを語りました。

「ある晩、一人の紳士が私たちの家にやって来て、8人もの子供がいるヒンドゥー教徒の家族が長い間食事がとれていない。彼らのために何かをしてください、と言いました。

私は食べ物を持ってすぐに出かけました。そこには、おなかをすかせている子供たちとお母さんがいました。彼女は私からご飯を受け取り、二つに分けてすぐに家を出て行きました。彼女が戻ってきたとき、私は彼女にどこに行ったのかと尋ねました。彼女は、隣に住むイスラム教徒の家族が空腹であることを知っていて、自分がもらった食べ物の半分を分け与えたのです。」そしてマザーが言った、「私が驚いたのは、彼女が食べ物をあげたことではありません。私が驚いたのは彼女が飢えの苦しみの中で、隣の人の苦しみに気づいていたことです」と。

マザーの体験は極端な例かもしれませんが、人間には弱さ、不十分さの中にも、他人の感情を察知し、他人を憐れむという能力があることに気づかされます。本学の教育精神を理解するということは、人間の持つこのような能力を高め、人間や社会の課題に向き合う力にすることです。

その意味で上智大学の教育は、皆さんに4つのCを求めます。一つ目は、英語で Competence

といい、自分自身を「有能」にすることです。これは、知識、スキル、能力につながる教育の学術的な側面を指します。有能な学生は、現実と対話し、質問し、問題を理解して解決することができます。第二に、Conscience「良心のある人間」に成長することです。これは、自分の責任を認識し、それに応じて行動することを指します。学びにおいても社会的役割においてもこの価値観を大切に人のことです。第三に、Compassionate「思いやり」を持つことです。これは、他人に共感し、正義のために働くことを指します。最後に、Commitment「コミットする」ことです。これは人間関係や社会的課題といったミッションに覚悟を持って臨むということです。みなさんにはこの4つのCを持つ人になることを目指していただきたい。4つのCは自分を自由にします。そして自分の家族や大切な人を大事にし、社会の困った人の助けになるのです。

教皇フランシスコは2025年を「赦しと和解を求めるための特別な機会」と決めました。広島と長崎の被爆から80年目という節目の年でもあり、世界各地での紛争や戦争、人権侵害、環境問題など困難な状況で、希望と連携の聖年と定めたのです。皆さんにも希望と連帯の巡礼者になっていただきたいです。みなさんの学びが自分自身を有能にし、自らの人生を豊かにするとともに、他者に奉仕し、平和な社会に貢献する存在となることを心から願っています。

これから始まる皆さんの大学・大学院生活が、実りの多いかけがえのない時間となることを祈り、祝辞とさせていただきます。

改めて、おめでとうございます。

2025年4月1日

学校法人上智学院 理事長 サリ・アガスティン